

## 持続的都市再生—京浜臨海部再生プロジェクト

### 21世紀COEプログラムの位置づけで活発化

京浜臨海部再生プロジェクトは、昨年度より21世紀COEプログラム「都市空間の持続再生学の創出」にも位置づけられた、大規模工場地帯の再生プロジェクトです。面積にして4400haという広大な地平に、北沢教授をコーディネーターとして、30名以上の研究者・大学院生らが関わり、横浜市と協力しながら、それぞれの分野で京浜臨海部工業地帯の再生について、けんけんがくがく議論を交わしております。

昨年度末には、COE研究者、横浜市、民間企業も集まって行われたワークショップを始め、8月4-5日にもワークショップが開催されるなど課外でも活発に活動しています。当研究室では、M2黒瀬、大谷、M1早坂、柴田らが健闘しております（昨年度はOB小林氏も大健闘でした）。

浅野総一郎を始めとして、明治後期から民間企業の進出を中心に築き上げられた京浜臨海工業地帯ですが、およそ100年を迎え構造変革が求められるとともに、なかなか市民の立ち入ることのできないこのエリアにも、隠された資源がたくさん残されております。持続的な都市としての京浜再生計画に乞うご期待。



(左上) 意外と緑も多い工業地帯 (中央上) 空いている石油タンク (右上) 自然緑化? 廃線跡  
(左下) ダイナミックな製粉サイロ (中央下) 京浜臨海部再生ワークショップ (3月) (右下) 臨海部らしいクレーン

### ■夏休み・部活模様

**都市デザイン研究部** 東京23区アーケード悉皆調査にとうとう着手。部員は担当区内のアーケードを一つ一つ調査に出かけている。暑い夏の現地調査は骨が折れる? いや、暑い夏だからこそ、アーケード商店街の面目躍如、避暑はばっちり! というわけで、秋には都区内アーケードの全容が明らかになる、はず!



三河島睡会商店街の日覆い

## 張北京大学講師を囲むOBの集い、上野韻松亭で盛り上がる

残暑厳しい8月19日(金)、明治6年に上野公園に建てられ、京都、滋賀の古材で大改造された料亭「韻松亭」で、OB 張天新北京大學講師を囲む都市デザイン研究室OBの集いが開かれ、張講師来日歓迎、今春金沢工業大學専任講師に栄転した遠藤新前助手、工学院大學助教授に昇進した窪田亜矢OG、博士になってタイへ帰国するニラモンド3への祝いなどで盛り上がった。参加者は現役含めて19人。二次会は3時過ぎまでつづいた。



張天新講師



遠藤新OB



窪田亜矢OG



ニラモンド3

次は本誌が当日みなさんに書いてもらった①古巣の研究室あてメッセージ①座右の銘アンケート(順不同)。

①上野の桜は咲いていないが、東大研究室の光りが不忍池の向こう側で咲いている。東京の町と北京の人の世界を明るくしている。その光りは永遠に咲くようにお祈りいたします。(張)

①住み慣れた東京を離れ、金沢に来て早5ヶ月。思った以上に暮らしやすい街。自動車中心の生活になったことをきっかけに、石川・富山・福井・滋賀・岐阜・愛知あたりの様々な町を訪問しています。②都市をデザインする。(遠藤)

①今日はうれしかった。東大に入った時代の友達に会った。5年がとっても早かった。TIME FLIES SO FAST!!

②YOU MUST HAVE FAITH IN YOURSELF (ニラモン)

①研究室にいるときはあたりまえの様に感じていましたが、都市デザイン研究室の活発な活動ができる雰囲気は、社会人や他の大学から見ても、うらやましがられる環境です。ぜひ今の雰囲気そのままに、これからも自由に社会に発信し続けられる場であり続けてください。②人生何とかなる。(田中健)

①がんばれ。②自信をもて。だから君の提案には説得力も、凄味も、厚みすらない。(ひみつ)

①「都市再生」の狂乱の中、正気の皆さんをみると安心というか、日本もまだまだ望みなきに非ずと思います。どんどん“越境”して、活躍の場を拓けて下さい。②勤能補拙(川西)

①マガジンを通して、今もいろいろなまちで活発にプロジェクトが展開されているのを拝見しています。これからはますますたくさんの方のまちを美しく元気にしてください!!。(荒俣)

①皆さんの成長と前向きな行動に感心しました。今後もよろしく願いいたします。(アリ)

<参加者・五十音順>(OB・OG) 荒俣佳子、池田晃一、池田聖子、今川俊一、遠藤新、川西崇行、窪田亜矢、栗原耕紘、田中健介、田中大朗、タマツ・アリ、張天新、橋本幸曜、三牧浩也(現役) 岡村祐、酒井憲一、中島直人、ニラモン、野原卓



テキストト：1903年発行

■夏休み・部活模様 読書会 Ruskin「The seven lamps of architecture」(邦訳：「建築の七灯」)を、少数3人で読み進めています。西村「都市保全計画」講義の劈頭でも紹介されるこの書、原文の英語はなかなかの難物。七灯中、現在辛うじて二灯まで読了。「読書の秋」のあいだに七灯完全制覇なるか?!途中参加者も募集しています。希望者は城内M1までメールで。

## ◆4年生インタビュー◆<第4回>ポンサンくん

バンコク郊外の生まれです。東京で言うと国分寺あたり。政府奨学生として高校から日本へ。日本だけ専門の限定がなかったので。都市工は大学入試時に選びました。今では良い勤だったなと思っています。修了したら帰国して公務員になることになっています。

日本の都市計画は、法制度が複雑すぎて混乱しま

す。ただ、環境政策は進んでいますね。森林は保たれているし、ゴミ分別も定着しているし。バンコクは、人が歩かなすぎ、タクシー使いすぎ。これじゃ、道路はいくらあっても足りない。地下鉄整備で、もっと人が歩ける都市を作らないとダメだな、と。

大学院に無事に進んで研究室ご溶け込んでいきたいです。

編集後記 「都市デザイン研マガジン、いつも楽しく拝読しています。卒業してしまうと研究室の情報は本当に入っていないものだと思うのですが、マガジンのお蔭で、旧友とも話に花が咲きます」というメールが届くなど、本誌も知られてきた。韻松亭でアンケート用紙を配り、「研究室のマガジン知っていますか」と尋ねて記入を頼むと、「知っています」「読んでいます」と明るい返事。先輩たちに歓迎されているインショウをインショウ亭で実感できた夜だった。(酒井)